新しい時代の、新しい大気社へ——

大気をまもり、
未来をひらく。

「大気社」という社名には、公害問題が大きな社会課題であった時代に日本において
「澄んだ空気を取り戻す」という強い志と、揺るぎない決意が込められています。

これからの時代においても
お客さま、そしてその先にある社会に対する志を原動力に、
より革新的なソリューションを生み出すことで、
産業の高度化と地球環境との調和を絶え間なく追求していきます。

そのために、私たちは「世界の知を、現場のカタチに。」をもっと体現する企業へ。
エネルギー・空気・水の領域で培ってきた
「グリーンテクノロジー」と「ロボティクスオートメーション」、
そして世界各地の知見とネットワークを掛け合わせたイノベーション創発を通じて、
ひとつひとつの現場に求められる答えを、日々具現化してまいります。



Our Philosophy 「顧客第一」

PURPOSE

大気をまもり、未来をひらく。
私たちの技術と創意を通じて、産業社会の高度化と地球環境との調和を図り、人々の豊かな暮らしに貢献する。

VISION

世界の知を、現場のカタチに。
「グリーンテクノロジー」と「ロボティクスオートメーション」に先端技術を掛け合わせ、
エンジニアリング企業として世界中の現場で最適な解を創り出す。

OUR VALUES

One TAIKISHA, One TEAM
国や文化を越えて一人ひとりのユニークな発想を尊重し、学び合い、世界の大気社グループの総力に変えていく。

Open Challenge, Quick Response
変化を恐れず何事もオープンマインドで受け入れ、日々の改善や新たなチャレンジ、そして自己成長へと繋げていく。

Ownership Belongs to Everyone
すべての社員が、日々の現場からその先の社会へ広がる価値にまで当事者意識を持ち、未来志向で目指すべきゴールを自ら描き、行動する。

編集方針・目次

新しい時代の、新しい大気社へ――

変革の兆し

見えてきた「可能性」と、クリアすべき「課題」について

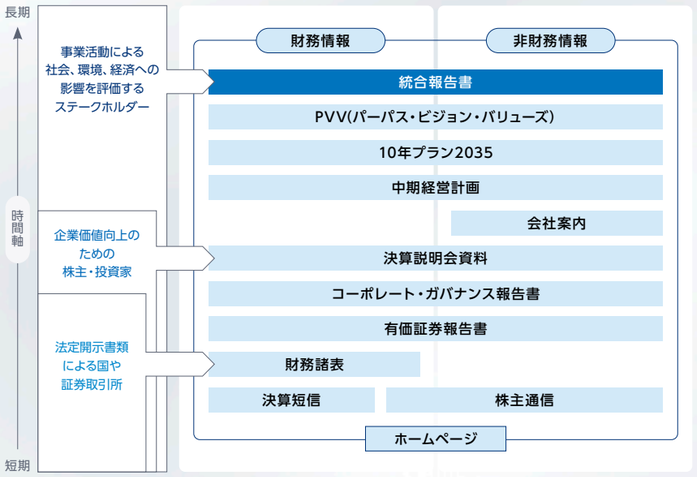
編集方針

本書は、2025年に策定した長期計画「10年プラン2035」と、新たに定めたPVV（パーパス・ビジョン・バリューズ）を軸に、企業価値向上に向けた取り組みをお伝えすることを目的として編集しました。変革が進む中、非日系顧客の開拓やグローバル連携の深化、人的資本・DXへの投資などにおいて、将来の成長につながる確かな手応えが見え始めています。一方で、事業ポートフォリオの変革、人材育成、成長投資の加速など、乗り越えるべき課題も明らかになってきました。長期ビジョンの実現に向けた手応えと課題を、具体的な取り組みや社員の声とともにご紹介します。

- 報告対象組織：
  当社および国内外のグループ会社を対象としています。
- 報告対象期間：
  2025年度（2025年4月1日～2026年3月31日）の活動を中心に、
  一部前後の活動を含めて記載しています。
- 発行日：2026年10月
- 次回発行予定：2027年10月
- 参考にしたガイドライン：
  環境省「環境報告ガイドライン（2018年版）」、「環境会計ガイドライン2005年版」、
  「生物多様性民間参画ガイドライン（2023年）」、
  GRI「サステナビリティ・レポーティング・スタンダード」、
  ISO26000、IFRS財団「国際統合報告フレームワーク」
- 制作：
  株式会社大気社 統合報告書編集委員会
- 連絡先：
  株式会社大気社 広報・サステナビリティ推進課 TEL.03-5338-5052（代）

情報開示体系

当社は、統合報告書を財務・非財務の両面から当社の価値創造をお伝えする媒体と位置づけています。
各種開示資料、ウェブサイトと連携した開示体系の中核として、株主・投資家をはじめとするステークホルダーの皆さまとの対話を深め、中長期的な企業価値向上につなげることを目指しています。




コーポレートサイト


IRサイト


サステナビリティサイト

将来の見通しに関するご注意

本報告書にて開示されているデータや将来についての計画や戦略、業績に関する予想および見通しは、本報告書の発行時点の判断や入手可能な情報に基づくもので、種々の要因により変化することがあり、これらの目標や予想の達成、および将来の業績を保証するものではありません。またこれらの情報が、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本報告書のご利用は、他の方法により入手された情報とも照合・確認し、ご利用者の判断によって行ってくださいますようお願いいたします。本報告書ご利用の結果、生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

変革の兆し―― 報告のポイント

Point 1

理念・ビジョンの刷新と10年プランの前進

1970年の社是制定から56年ぶりに国内外5,000名の対話をもとにパーパス・ビジョン・バリューズを策定。「10年プラン2035」を起点に、大気社は変革への一歩を踏み出しました。

Point 2

中計目標を初年度で前倒し達成

受注工事高3,517億円、ROE10.1%など、中期経営計画の複数指標を初年度で達成。非日系企業からの受注は前年度比2倍規模に拡大し、“Global Inclusion”の実践が収益に結実し始めています。

Point 3

「人材」と「技術」への投資を本格化

労働集約型から資本集約型ビジネスへの転換に向け、デジタルとAIによるビジネスモデル変革や技術の棚卸し、キャリアプロフェッショナル人材の計画的な育成など、成長を支える経営資本の増強を進めています。

Point 4

ガバナンス・ESG基盤を強化

気候変動シナリオの見直しや人権デュー・ディリジェンスの開始など、ESG課題への対応を強化。取締役会の実効性評価や委員会の設置を通じ、変革を支える経営基盤の整備を進めています。

Contents

01 企業理念
05 At a glance❶ 事業内容
07 At a glance❷ グローバルビジネス
09 価値創造の歴史

13 変革への挑戦 Part 1 大気社のありたい姿
15 社長メッセージ
21 価値創造モデル
23 特集❶ 理念・ビジョン刷新プロジェクト “Project Visionary”

27 変革への挑戦 Part 2 創出価値の拡大へ
29 社外取締役座談会
37 長期計画「10年プラン2035」｜目標とマイルストーン
39 マテリアリティ
41 中期経営計画の総括／担当役員メッセージ
51 環境システム事業
55 塗装システム事業
59 特集❷ Design, Build & Careの追求

61 変革への挑戦 Part 3 経営資本の増強
63 人材・技術担当役員メッセージ
67 人的資本
71 TOPICS 1 グローバル成長を見据えた人的資本の増強へ
73 技術・知的資本（技術戦略）
77 TOPICS 2 新事業開発への挑戦

79 変革への挑戦 Part 4 経営基盤の強化
81 コーポレート・ガバナンス
88 リスクマネジメント
91 コンプライアンス
93 気候変動の緩和と適応
97 人的資本の取り組み
101 人権の尊重

データセクション
103 11年間の財務データ
105 連結財務諸表
107 財務・ESGハイライト
109 会社情報・株式情報
110 第三者意見